

# 自己評価の結果について

令和6年度

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園

留萌聖園幼稚園

## 1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備を行う。また、各関係機関との連携を取りながら、きめ細かな教育・保育を展開して行く。
- ・小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの積極的かつ計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。
- ・安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、引き続き、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。
- ・給食に対して、職員間で共通の認識の元、みんなで楽しく一緒に食事をする食習慣を身に付けられよう心がける。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝え、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を積極的に設け、出来る範囲で関わりを持つ活動を展開して行く。また、引き続き「留萌」の良さを子ども達に伝えるため、体験を通して、留萌近郊の自然・施設・味覚（地産品）の素晴らしさを感じる機会を積極的に作っていく。
- ・「いのちの尊さ」を伝える体験型保育の実施や、音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会を設け、実際に子ども達が見たり、触ったりする事で、より興味・関心を深める事が出来る様取り入れて行く。
- ・情報提供について保護者の要望をくみ取りながら、SNSなどを利用し、リアルタイムに発信出来る環境を整える。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなれる様、引き続き体制を整えていく。
- ・保育者が、各自の研究課題を明確にし、リモート研修などを利用しながら保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努めるなどスキルアップをはかる。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直しやICTを積極的活用する。職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また、保育や行事の多角的な見直しにより、保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に進めて行く。
- ・預かり保育を利用する児の保護者が、安心して子どもを預けられるよう、担当職員のスキルアップや環境整備を図る。
- ・ちびっこ教室や園舎開放の体制および内容の見直しを図り、未就園児の入会の促進と、園児の増加に繋がるための地域への情報提供を、積極的に行い周知を図る。

### 3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
<p><b>1 保育の計画性</b></p> <p>保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が減少する中、行事や日々の保育を見直し、園全体での取組みを増やし、子ども達が楽しく園生活を送れる事を心がけ、工夫しながら取り組む事が出来た。</li> <li>・一人ひとりの子どもの心に寄り添い、気持ちを受け止め、安心して生活できる様に配慮した。</li> <li>・保育環境の構成では、安全面での配慮は見られたが、子どもたちが主体的に遊べる環境構成や、季節を生かした環境構成への取組みは、まだまだ改善の余地があり、個々の取組みだけでなく、園全体で取り組んでいく必要がある。</li> <li>・本園の教育の柱となっている宗教教育の取組みに対して、週一回訪問する聖堂でのお祈り、主任司祭や園長からの宗話の時間は、心を落ち着かせる場として有効であり、キリスト教理念を継承していく上でも今後も継続してほしいという意見が多くあった。</li> </ul>
<p><b>2 保育の在り方、幼児への対応</b></p> <p>安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育中や自由遊び時の事故やケガの発生は、これまでの経験が生かされてきていて大きなケガにはつながっていない。しかしながら、ほんの一瞬に起こってしまう子ども同士のトラブルやケガ、予測のつかない行動に対する対応の甘さが時折見られた。ヒヤリ・ハット事案の検証をもとに対策等を職員間で共有しているが、今後も遊具、設備等の安全管理や子どもたちの日常生活の様子を把握し、適切な対応をしていく必要がある。</li> <li>・個々の園児の発達の姿や課題、保護者への相談・報告等について、職員間の情報を共有してきめ細かな対応を心がけた。</li> <li>・預かり保育は、保育日、長期休み期間、また行事後の振替休日などにも行い、保護者のニーズに対応出来るよう実施した。</li> </ul>
<p><b>3 保育者としての資質</b></p> <p>保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの職員も愛情を持って子ども達に接し、自分自身も保育を楽しく行っているという回答が多かった。</li> <li>・子ども達の良き手本となる様な言動を心がけ、日々子ども達に誠心誠意関わっている様子も覗える。ただ、一人ひとりの保育の専門性や資質の向上、キャリアアップの面では、保育のマンネリ化や、新しい事にチャレンジする姿勢が希薄になってきているように感じる。</li> <li>・保育者間の連携では、行事などの進め方に対して、行事計画を共有し行ってきたが、日常の保育の中では不十分なところがあり、「報告、連絡、相談」など基本的なマナーの大切さを感じた。</li> </ul>
<p><b>4 保護者への対応及び家庭との連携</b></p> <p>園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と保護者との関わりも良好と思われるが、電話での対応や文書でのお知らせなど苦手意識がある職員もいる。</li> <li>・緊急連絡は公式 LINE で発信。ほぼ100%保護者に伝わっている。</li> <li>・園からの情報提供は、印刷物が主になっているが、今後 SNS を使った発信も検討していく。Instagramの配信は、日々の保育の様子をスピーディーに保護者に伝えることが出来、保育理解や安心に繋がっていると思われる。</li> <li>・保育や子どもの様子などに関しての保護者からの問い合わせや、連絡事項には迅速な対応が必要となるが、担任だけのやり取りで終わってしまい、職員全体に情報が共有されていない場合もあったため徹底して行く。</li> <li>・保護者からの相談事項には、担任だけではなく、管理職も同席し、園の考えや提案をしっかりと伝えられる様に、また、具体的な質問等にもその場で回答できるように体制を整えて対応している。</li> </ul>

<p><b>5 地域社会との連携</b></p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海遊びや、神居岩公園の花見、増毛町の果樹園でのサクランボ狩りやリンゴ狩り等自然の触れ合いを大切に、また「ちゃいるも」の訪問やスポーツセンターでの体育教室など地域の施設を訪れることができた。</li> <li>・就学に向けて学校にも訪問し一年生との交流も行えた。スムーズな就学への移行の取り組みとして学校給食体験は給食センターの協力により月2回実施できた。</li> <li>・年長児が、国道での交通安全旗の波作戦や冬の交通安全運動に参加したことや防火啓発は子どもたちにとっても意識を高める良い機会となった。</li> <li>・子育て支援に関しては、遊びの場として年齢を問わない園舎開放日を設けたが、参加人数が少なかったり、行事等との兼ね合いでなかなか日程をとれなかったこともあり、次年度の課題である。</li> </ul>
<p><b>6 研修と研究</b></p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に関してはハイブリット（対面とリモート併用）が主流となり、参加しやすくなった。今年は、公開保育や実技講習、対面式の研修会に出向く機会もあり、実際の保育を見学したり、研究協議での生の声を聞くことができた。</li> <li>・リモートで参加することで、今までは参加していなかった内容の研修にも、積極的に参加する事も出来た。しかし、各自の専門性を高めるための研究は、具体的な研究目標を明確にすることが出来ておらず、自ら進んで専門性のある研修に取り組む姿勢が感じられず、今後は時間を割いて取り組む必要性を感じた。</li> </ul>
<p><b>7 情報公開</b></p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。感染症・伝染病等の発生時には、状況をお知らせし保護者に注意喚起を促すようにした。</li> <li>・昨年度の学校評価の結果や危機管理マニュアルは、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。また、日常の保育の様子や園児のみの行事の様子など今年度もInstagramでの配信を行い、多くの保護者が閲覧しており、良い評価をいただいている。</li> <li>・未就園児対象のちびっこ教室は、各幼稚園の「満3歳児保育」が定着してきたことや、保護者（母親）の就労が増加している事から、園児の弟妹であっても低年齢から保育園に通う子どもも多く、人数は減少傾向にある。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）の取り組みとしては、引き続き宗教指導の司祭による月に一度程度の「宗話の時間」を実施している。また司祭不在の週には、園長が宗話を行い一層の心の教育に力を入れている。司祭による保護者対象のお話し会（月一回程度）も、保育参観との抱き合わせて引き続き行っているが、残念ながら参加者が少なくなる傾向がある。</li> <li>・特別な支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、必要な人材を確保し、全てのクラスに補助教諭を配置しきめ細かい保育を行えるよう努めた。</li> <li>・小学校へのスムーズな接続に関しては、スタートカリキュラムを見据えて、幼稚園のうちから接続を意識した保育を取り入れるように計画しているが、十分とは言えず、今後はアプローチカリキュラムを具体的に明確化し、保育に組み込みながら計画していく必要性を感じた。</li> <li>・すべての子どもたちに目が行き届く安全な保育環境の整備は、一定数の保育者の確保により人員を配置し強化してきているが、突発的な事故やケガ、また子ども同士のトラブルによるケガは日常的にいつ起きるか予測できない事ではあるので、日頃から子どもたちの様子を把握し、今後も職員全員での見守り、事故防止に努めていくことが重要であると思う。</li> <li>・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）の改善のために、月に1回程度、運動教室を行なっている。今年度は外部講師による指導ではないが、担当教諭がカリキュラムを作成し、年齢にあった指導を行なった。日々の積み重ねが大事であると感じ、来年度の取り組みの頻度などの検討が必要と思われる。</li> <li>・今年度から始まった給食は、みんなで楽しく一緒に食事をする食習慣を身に付けるとともに、野菜育て等の取り組みと合わせ、好き嫌いが減り、色々なものに挑戦するなど、よい効果が出ている。</li> <li>・職員間の連携強化、情報共有の徹底を図るための方策を、ICTなどを取り入れ充実させることが重要であると感じた。</li> </ul>
--

- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝える事が難しい状況下ではあるが、働く人々を知る機会（勤労感謝の職場訪問等）を設けた。海遊びや「ちゃいるも」の利用などはあったが、今後積極的に留萌を知る機会を作っていくことが必要と感じた。
- ・音楽鑑賞の機会が2回あり、楽器の生の音のすばらしさを身近に感じる事が出来た。
- ・実技研修や公開保育を見学する機会があり、実際の保育に参考となる研修を受けたが、今後は、個人研究目標の設定や、自ら研修に参加し専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上を目指す研修計画の作成が必要と感じた。
- ・職員の働き方改革を押し進めるよう努力はしているが、行事前の残業や持ち帰りの業務は減らない現状である。行事等の取り組みに対して、もう一度精査し個人の負担を減らす効率的な業務の見直しを図る必要性を感じた。
- ・預かり保育に関しては、行事振替日など就労する保護者のニーズに合わせて行った。利用する子どもが園での生活が引き継がれるよう、きめ細かい保育を提供できるよう取り組んだ。

## 5. 学校関係者の評価

### 1. 『保育の計画性』に関しては「満足」の評価をいただいた。

- \*「季節に応じた遊び、体験を楽しむ事が出来た」「作品展は、園全体で行っていてよい取り組みだと思った」「年少のクラスを2つに分けることによって、先生が目が行き届き、不安なく幼稚園生活を送る事が出来た」とのご意見をいただいた。
- \*宗教教育について「教育目標で述べられている『おいのり・しんせつ・がまん・ありがとう』は子どもたちにもわかりやすい表現で伝えており、基本となるキリスト教の精神と理念に則ったものだ」と評価している。手を合わせて祈ることができる子どもたちの姿を今後も見続けていきたい」「神父様や園長先生からのお話は、幼稚園の特色なので、続けていくことが大切だと思う」との意見をいただいた。
- \*環境を構成する上で、「安全面への配慮をしつつ、一人ひとりのお子さんのニーズにこたえていけるように体制や環境の工夫などに園全体で考え取り組まれていくことを今後も期待している」とのご意見をいただいた。

### 2. 『保育の在り方及び対応』に関しては「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- \*日常の保育の中で、「小さなケガ等も報告いただき、安心して預けられた」「幼稚園の様子をきめ細かく教えていただけるので安心している」などの評価の反面、「先生に気付かれず、こっそりケガをしてしまった。大きな事故は些細なことから起こるものなので、今一度全体への心配りを願います」などのご意見も見られた。
- \*預かり保育について「対応日が多く設定されており、とてもありがたい」「行事後の振替休日の預かりは特に助かります」「保護者のニーズに対応し、預かり保育に柔軟に対応できていたことを高く評価します」など肯定的な評価をいただく。

### 3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- \*「どの先生も信頼でき、全体的に安心感がある」「子どもたちと同じ目線になり、子どもたちの気持ちになり接している姿は、素晴らしかった」との評価をいただく反面、「行事の指導が厳しすぎるのでは…という話を聞いた」とのご意見もいただきました。「マナー化の打破のためには、受け持ちの学年が固定化しないようにする、毎年1つは新しいカリキュラムを取り入れる等改善策を立てると良いのでは？」のご意見をいただいた。
- \*「職員の資質向上や業務に取り組む姿勢は、より良い保育や経営上の課題となっていると推察します。専門性を高めるための研修への参加や園内研修を実施する等、職員一人一人のスキルアップや職員間も連携強化につながるような取り組みを期待する」という激励のご意見もいただいた。
- \*「カトリック幼稚園と言う視点から職員の方々には保育者としてのスキルだけではなく、キリスト教への理解と実践は不可欠であると考えます。司祭や園長先生からの宗話などで、宗教面でのスキルアップが行われていると推察する」との意見をいただいた。

#### 4. 『保護者への対応』に関しては、「やや不満足」から「満足」まで評価が分かれた。

- \*「Instagramや先生方からのおたよりは、楽しみにしている」「Instagramは、幼稚園の子どもの様子が見れて非常に楽しみにしている」などの意見があげられていた。
- \*緊急連絡の情報発信については、「公式LINEでの連絡で見やすくなったが、1家庭1名のみ登録ではなく、複数名で登録できると利便性も高まる」とのご意見が複数あった。また、「お休みの連絡もアプリを使って出来るようになると良い」との意見もあった。
- \*実施が少なかった園舎開放については、「利用者が少なくても、地道に続けることでよい効果が生まれると思う」とのご意見をいただいた。

#### 5. 『地域社会との連携』に関しては、「満足」の評価をいただいた。

- \*「地域の教育資源を数多く活用している面は、大変良いことだと思う」「幼稚園から外に出て、色々な体験・経験をする機会があり、とても良い時間だと思う」などの肯定的な意見が多く見られた。「出来る範囲内の地域社会との連携を行っている事は一定の評価に値する」「様々な施設に足を運び、また、防災意識を高める取り組みができており、子どもたちが地域のことを知る機会が持っていることは、高く評価する」とのご意見をいただいた。

#### 6. 『研修と研究』に関しては、概ね「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- \*保護者の方からは見えにくい項目であり、評価なしの方もいらっしゃったが、「時代に沿った方法で、今できる事を怠らずに実施していることは理解できた」「リモートでの研修が増え、様々な内容の研修に参加可能となり、参加意欲の向上にも繋がっている事と思う。研究においては、時間や熱意・探求心が求められるが、職員全体の専門性を高めていくために今後も必要であると考える」とのご意見をいただいた。

#### 7. 『情報公開』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- \*「毎回、クラスだよりやインスタは、子どもたちの様子が見れるので楽しみ」「紙・デジタルの両方で積極的に発信できていると思う」「ホームページも充実しており、園だより等も閲覧することもでき、興味を持った方は情報共有が可能である」要望として「インスタ、ホームページ等を活用し、より多くの人に園の事・園の良さを知ってもらえるように園での日々の様子や取り組みを頻度良く、幅広く情報発信していくことを期待する」とのご意見をいただいた。
- \*「感染症の発生時に状況を知らせていただけるのは、注意や子どもの体調を見る上で、参考になった」との評価をいただいた一方で、「病院で、幼稚園の感染症の発生状況のことを聞かれ、答えられないこともあったので、すばやく知らせてほしい」とのご意見もあった。
- \*未就園児対象のちびっこ教室については、「少子化、満3歳児保育の定着、保護者の就労状況から減少傾向は否めないことと推察しますが、今後も聖園幼稚園の独自の手法で保護者との連携を深め、信頼をしていただき、幼児教育の必要性や重要性を市民に周知していただきたいと期待する」との意見をいただいた。

#### 8. 『その他』として

- \*野菜育てや給食のおかげで、食べられるものが増えたり、食べる量も増え、感謝している。
- \*クリスマス会が幼稚園のホールだったが、舞台までの距離が近く、子どもたちの表情もよく見えてよかった。
- \*時代に合わせて変わっていくカリキュラムと、子どもたちをしっかりと育ててくれる変わらぬ園全体の雰囲気を大切に、「不易と流行」を意識して、これからも素晴らしい幼稚園であり続けてほしいと思う。
- \*特別支援教育の充実に向けて、発達支援センターとの連携を今後も図っていってもらえればと思っています。定期的な園見学や訪問支援、療育相談、また市域支援として預かり時間帯を利用した取り組み（直接支援や先生への助言、保護者・先生からの相談・面談など）も充実させていきたいと考えております。

## 6. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

## 7. 次年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備を行う。また、各関係機関との連携を取りながら、きめ細かな教育・保育を展開して行く。
- ・小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの積極的かつ計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。就学前に身につけたい事を明確にし、今後も園での取り組みだけでなく、保護者の理解・協力も得ながら進めて行く。
- ・安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。また、防災訓練や避難誘導訓練を通して、保育者・保護者・園児が非常時に冷静に行動出来る様、その内容についても改善を図っていく。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、引き続き、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。また、いろいろな運動を取り入れて行く事で、子ども達が飽きずに活動に取り組める様工夫する。
- ・野菜づくりや給食などの取り組みを通して、食べ物への感謝の気持ちを持ち、みんなで楽しく一緒に食事を食べる習慣を身に付けるよう心がける。「いのちの尊さ」を伝える体験型保育（畜産農家の見学）の実施。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝え、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を積極的に設け、出来る範囲で関わりを持つ活動を展開して行く。また、「留萌」の良さを子ども達に伝えるため、体験を通して、留萌近郊の自然・施設・味覚（地産品）の素晴らしさを感じる機会を積極的に作っていく。
- ・音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会を設け、実際に子ども達が見たり、触ったりする事で、より興味・関心を深める事が出来る様取り入れて行く
- ・情報提供について保護者の要望をくみ取りながら、SNSなどを利用し、スピーディーな発信が出来る環境を整える。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなる様、引き続き体制を整えていく。また、相談しやすい雰囲気作りを心がけて行く。
- ・計画的に園内研修を取り入れながら、保育者としてのスキルアップをはかる。各自の研究課題を明確にし、リモート研修などを利用しながら保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努める。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直し、ICTを積極的に活用する。職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また、保育や行事の多角的な見直しにより、保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に進めて行く。
- ・保護者が安心して子どもを預けられるよう、職員のスキルアップや環境整備を図る。また、長期休み期間の長時間保育により、子どもの年齢差による体への負担を考慮し、無理のない保育を検討して行く。
- ・ちびっこ教室や園舎開放の体制および内容の見直しを図り、未就園児の入会の促進と、園児の増加に繋がるための地域への情報提供を積極的に行い、周知を図る。